

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092300031		
法人名	社会福祉法人 真福会		
事業所名(ユニット名)	グループホームはまゆう園 ユニット 2		
所在地	和歌山県新宮市新宮7683-109		
自己評価作成日	平成28年1月11日	評価結果市町村受理日	平成 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2
訪問調査日	平成28年2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で生き生きとその人らしく暮らしていくことができる支援を目指しています。生き生きと生活する為に本人がしたいこと食べたいものなど日々の会話の中からくみ取り、実現する取り組みを行っています。また、お天気の良い日は散歩に出かける援助をして室内ばかりの生活ではなく屋外に出て気分転換を図り、社会との繋がりを継続できる支援をしています。医療連携に力を入れており、新宮市社会福祉協議会訪問看護ステーションと連携して医師との関係を構築しています。心身の状態の変化に速やかに対応できる体制づくりに務めています。立地にも恵まれており、海拔12mの高さにあり高確率で発生する南海・東南海地震に備えます。丹鶴城跡・丹鶴城公園が近くであり、自然の環境に触れ合うことができました、商店街にも近く馴染みの商店にも買い物に行くことができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な雰囲気の中でその人らしい暮らしとは何かをことある事に話し合っている。職員採用の際には、新人研修の中で理念を説明し、実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は、自治会に加入しており会議へ参加し、地域の課題にも解決に向けて協力体制である。慰問の際には、地域の方も招待して交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	慰問の際には、地域の高齢者を主に参加して頂きたい時間を共有したいと考える。また、地域の方の参加により園の様子を説明して認知症についての理解を深める事ができるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の現状の平均介護度、平均年齢の報告、毎月のイベントやレクリエーションの写真を見て頂く等して状況報告している。また、課題についても報告し意見を参考にして改善や解決に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入退所の状況を報告している。随時、相談や報告を行い実情を伝えて協力関係を築く事ができるよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を定期的に行い、理解を深めている。玄関の施錠は、入居者様や御家族が閉塞感を感じないように行っておらず、契約時には身体拘束をしないケアについて取り組みを伝えている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待対策について研修を行っている。言葉遣いや声かけの仕方は、随時注意喚起している。 入居者様には不安な事や不快な事はないか日々の会話の中で傾聴している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修の機会を設け、理解を深めているところであるが今後、さらに深く学ぶ機会を持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分に時間をとって説明している。ひとつひとつの項目について不安や疑問がないか確認を取りながら進めており、入所後も新たに不明な点があればいつでもお問い合わせいただくようお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。ご家族には、随時報告や連絡をして意見や相談しやすい関係を築く事ができるように努めている。また、お聞きした意見は随時運営や業務に反映する機会を設けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼や毎月の会議の際には、職員の報告、意見、提案を聴き、全体あるいは個別で検討できる機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員の自己評価表をもとに勤務状況を把握し、内部研修、外部研修を行い、各自が向上心や自信を持って働けるよう職場の環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を毎月開催して全ての職員に参加を促している。可能な限り参加できている。外部研修は、個人の能力や意欲に応じて参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネジャーは、市内のケアマネジャー会議に参加し、同業者との交流を行ってスキルアップする機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時、初回面談だけでなく御本人の意向を日を追って把握する為再訪問して確認し、関係性を構築している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時、初回面談だけでなく再訪問や電話などして御家族の不安や困っている事、入所してから希望する事などを聞き取っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時、ご本人やご家族からお話を聞く中でご本人にとってどんな支援を行えばその人らしく幸せに暮らせるかを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様を人生の先輩と敬い、経験談をうかがうことで私たちの知りえない日本の過去を勉強させていただいたり、得意な事を教えていただきながら共に暮らす関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護に携わるチームとして御家族を捉えている。入居した環境であっても御家族の支援なくしては、その人らしく暮らす事はできないと考えている為随時報告、連絡、相談を行い支援方法を検討している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係を閉ざすことなく生活できるように面会や御家族との外出の時間は、柔軟に対応している。また、環境面でも見慣れた風景を作る為自宅で使い慣れた物等を持ち込んでいただくようお勧めしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアや居室で自由に交流を楽しんでいたが孤立している方や関係性に職員の介入が必要な方については、適時関わることで支えあって生活できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後も転居先が情報提供を必要としていないか訪問や電話などで状況を確認している。また、高齢者世帯であれば介護者にお困りごとがないかも状況を確認している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや暮らし方の希望はケアプラン作成時に必ず確認し、状態や状況に変化がある時に、随時お聞きしている。意向の把握については日々の会話の中から汲み取り、意向に沿うよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス導入時にまず生活歴や暮らし方など御本人を取り巻く環境をお聞きして把握に努め、ケアプランに反映している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が日々会話の中から聞き取った情報を朝礼や夕礼、または随時管理者や職員間で共有して現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで検討が必要な方について個別のケア方法を話し合い、意見やアイデアを出し合う機会を設けている。それをケアプランに反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に御本人の一日の様子が情緒的にまた、ありのままの事実を記録している。ケアを変更する気づきや実践の経過、結果も記録してケアプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療のニーズを把握した為医療連携体制加算を導入して訪問看護師と連携する事ができた。今後もニーズに対応するべく柔軟に支援方法を検討していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会資源である市のオムツ支給を利用。又、ボランティアの慰問や法人内の保育園と行き来し、交流の機会を作るなどして社会との繋がりを継続できるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、今まで通院していたかかりつけ医にかかるが御本人の状態を鑑みて希望をお聞きした上で決定している。必要な診療科目も継続して受診できるよう通院支援を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	契約している訪問看護師と連携し、訪問時だけでなく日々の状態変化を認めれば電話や事業所を訪問して報告し、指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、看護師に情報提供を行い日ごろの生活状況を伝えている。退院時には、その後の生活が不安なく過ごせるように専門的な助言を受けている。必要時には、担当者会議を開催している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には「重度化、終末期対応指針」について説明し、方針を共有している。「看取りに関する指針」についても同時に説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時マニュアルを備えている。急変時の対応は、定期的に勉強会で周知しているところだが訓練には至らず、今後の課題である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	海拔12mの高台に立地しているが過信せず避難訓練を行っており非常用備蓄もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権、権利擁護について勉強会を行い基本方針を確認する機会を設けている。言葉使いに乱れはないか日々、職員間で話し合い、留意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人の思いや希望を引き出せるよう担当制を取り入れて関係を構築してできる限り実現できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	マイペースで過ごせるよう行動の制限はしていないが安全には、十分に留意する。どのように一日を過ごしたいか会話の中から汲み取っており全て叶える事は困難であるが満足できる暮らしの実現に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御希望を聞きながら一緒に洋服を選択する。整髪は、外部からカットに訪問してくれるが馴染みの所がよい方は、それに限らない。化粧品が必要な方は、一緒に選びに行きおしゃれを楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みについてアンケートをとり、献立作成に反映している。1週間ずつ献立を決定しているが個別に好き嫌いがあり、別メニューも調理している。可能な方は、準備や片付けに参加していただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	総合シートを使用して食事量、水分量を把握し、対応している。食事摂取の状態を観察して咀嚼、嚥下の力を見極め、食事形態を検討している。好き嫌いは考慮して別メニューも調理する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。お手伝いが必要な方は、能力に応じて介助を行う。夕食後は、義歯を外してお預かりし、洗浄を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	総合シートを使用して排泄の間隔を把握している。できる限りトイレでの排泄を支援し、困難になればポータブルトイレの利用も行い状態に合わせて段階的にケア方法を検討する。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	総合シートを使用して排便の間隔を把握する。個別の排便パターンを把握し、牛乳やオリゴ糖を飲用したり、運動を促すなどして改善に向けるがそれでも困難であれば医師や訪問看護師と相談して対応を検討している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現状では、曜日を決めて入浴して頂いている為個々に沿った支援が課題。しかし、介助が必要のない方で就寝前に入浴したいという方がおられ、その対応としている。異性介助が苦手な方については同姓で対応させて頂く。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝したい時間が違う為その方にあった時間で就寝の支援を行っている。日中も休息時間を希望する方は、居室で休んで頂くが夜間の眠りに差し支えないように時間を見計らって声かけし起きて頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルで疾患や服薬情報を確認でき、職員が把握できるようにしている。入居の際のカンファレンスでは、治療中の疾患について周知している。訪問看護師と連携し、症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時の聞き取りや入居後の日々の会話の中から得意な事や嗜好品を把握するよう努めて支援している。屋内だけで過ごすのではなく仲ノ町やオークワ、丹鶴城へ散歩に出かけて気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	雨が降っていないければ散歩へ出かけている。日々の会話の中で行きたい場所を把握して遠出ができるように支援している。商店街のイベント等があれば参加して地域の方との交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が希望すれば御家族と相談して少額を管理して頂いている。購入したいものがあれば職員が付き添って買い物に行く。買い物へ行くレクリエーションも実施し、皆様に喜ばれた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御希望があればいつでも電話できる。ご本人が手紙などを送りたい時には、援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室や共用の空間が常に清潔保持できるよう掃除や環境整備に努めている。共用のテレビは、音量や番組をフロアで過ごしているメンバーに合わせて変えるなど工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にソファを配置し、気の合った方同士座り、会話を楽しんでいる。一人で過ごしたい方は共用空間の一人がけの椅子で本を読むなどして趣味を楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に置くものは自由で自宅から持ち込んでいただくようお願いしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、バリアフリーで手すりを伝って自由に歩行できる。共用空間も広すぎずテーブルや椅子など伝って歩行できる。車椅子も自走できるよう家具の配置に配慮している。		